

地域で作って
地域で食べるを
あたりまえに

「食」は「いのち」を育む大切なもの。まちづくりに「子どもの生命を護る」と掲げる築上町では、「食」と「農」の循環を大切に、地域で行われる資源循環型農業を支えています。平成6年(1994)4月から、し尿を好気性発酵させて有機液状堆肥(液肥)化し、農地に還元する資源循環型農業を推進。また、有機液肥利用者協議会と連携し、小学生を対象に液肥を使った米づくり体験を支援しています。液肥栽培米は「シャンシャン米・環(たまき)」としてブランド化され、町内小中学校の米飯給食に供給しています。資源循環による環境にやさしい農業を実践し、「食育」につなげる築上町の取り組み。子どもたちは資源循環型農業を学び、「食べる」と「つくる」ことをつながりを知り、地域で作って地域で食べることの大切さを体感しています。



未来を見据えた 資源循環型 農業のまち

！
学校と
連動した
食と農業の
イイ関係

資源循環型農業を子どもたちに理解してもらえよう。小学校の総合学習で町独自の取組みを紹介し、液肥を使った米づくり体験を実施。このような資源循環型農業は平成14年度から続けられており、町の液肥事業の普及と食育の一翼を担っています。授業を通して、子どもたちは町内で生産される米や野菜を食べ、し尿が液肥となり、資源循環型農業が成り立っていることを理解しています。また小学校では、地域の農家の指導を受けながら学校田で米を育てています。子どもたちは、液肥を散布した学校田で田植えを体験。秋に収穫し、給食米として味わっています。自分で米を作れば愛着がわき、食べ物を無駄にしないようになります。子どもたちの手で育てることは、心と体を養い、健全に生きるための力を培っています。さらに、町が策定する食育基本計画では、野菜も含めた自給的な給食を目指しています。

おいしいお米を
食べてもらいたい



築上町有機液肥利用者協議会
鐘ヶ江和馬さん

平成6年から液肥を使った液肥栽培米の生産に取り組んでいます。当初は機械等をそろえることも大変で、なかなか普及しませんでした。学校給食に使用してもらえるようになったことで、子どもたちに環境や食のサイクルについて身近に学んでもらい、少しずつ取組みが浸透してきました。

お米の名前は全国公募により『シャンシャン米 環(たまき)』と名付けました。「シャンシャン」とは方言で「しっかり、しゃきっと」という意味です。品種は、夢つくしで、現在では、味も良いと喜んでいただけるようになりました。また、九州各方面から視察も増え、これまで続けてきた成果を感じられるようになりました。今後も、築上町として資源循環型農業を推進していきながら、後継者が育つよう継続して農業に取り組める環境づくりをしていきたいと思っています。